

オクラのカルテック施肥例 (10アール当り)

時期	方法	資材
本畑の地力作り	なるべく早めに (定植1ヶ月前迄) 全面に投入して、 深耕します (土壌深くまで肥料分 が行き渡るように) 茎葉残渣は鋤込み	ラクトバチルス 600g … 深く、排水のよい、肥沃な土を作ります。 堆厩肥 1~3トン 硫安 60kg (もし複合肥料ならN成分:8~12kg程度) ※もしも堆肥・有機物が無く、砂地の場合は 硫酸カリ10kg追加。 ※このチツソは有機化し、緩効的に効きます。植付け時には土壌EC: 0.1~0.2 (0.3未満)に安定していることが大事です。 ※もしも土壌pH:5.7以下と酸性の場合は この時にも 畑のカルシウムを 60kg前後 追加して下さい。(土の深層を中和しておく)
ウネ作りの時	ウネ作り時に、ウネ上に均等に散布 (十分に灌水して黒マルチ・フィルムを被覆、7日おく)	畑のカルシウム 60kg ※土壌pH:6.0~6.5が好適です。ただし深層も測定すること。 (栽培中に6.0以下に低下させないように。) pH:6.8以上の場合には カルテック Ca(粒)を。
播種 ~ 1ヵ月	灌水、または 本葉2枚目以降は 葉面散布でも可	濃縮酵素液 2リットル前後 灌水、または500倍 葉面散布 [1]播種後、手灌水に 1000倍で使用…発根・発芽を揃える [2]本葉3枚までに間引き(1穴4本に)。この時に500倍で灌水 ※根を深層へ張らせること。チツソは効かせないこと! ※播種後15~20日で(本葉)第1葉、以後3~5日ごとに1枚展葉。 本葉の3枚目以降、 切れ込みが深く風通しのよい、本来の葉形 になります。刻みが浅いのは チツソ過剰か カルシウム不足⇒Ca液を。 刻みが深くて草勢が弱いのは 根の衰弱⇒酵素液を。
開花期	播種後40日頃 第一花の開花期	カルテックCa液状 500倍 葉面散布、または 2リットル灌水 ※カルシウムで着果よく、草勢を充実させます。 ※6葉以降、各節に開花する。この第一花の蕾が見えたらカルシウム。 ※以後、花が小さい(直径9cm以下)、黄色が薄い、早朝に一斉開花しない、花卉が萎れる等の場合は カルシウムを補給(及び根の力を)。
追肥	収穫中、 半月ごとに	硫安 10kg 畑のカルシウム 10kg 基本的には 収穫期間中、半月に1回 ずつ、同量・同時に散布。草勢を見て。
調節	収穫中の調節 半月ごと交互に また草勢を見て サヤの先端まで ピンと強く、曲が らずに伸びる。 鮮緑色で、種も過 熟(黒変)しない キレイな五角形 に張ったガクに、 痛いようなトゲが 生えている。サヤ 全体にウブ毛覆	濃縮酵素液 500倍 葉面散布、または2~5リットル灌水 …根を強く働かせ、草勢を維持。展葉・生長が速く、生長点(茎頂)が大きく、茎が太くなる。開花節より上部が伸びなくなったら酵素液を。 また、開花後4日で10cmにならないほど 伸びが悪かったら酵素液 。 ※もしも強風で倒伏したら、すぐに引起して 酵素液を灌水。 カルテックCa液状 500倍 葉面散布、または2~5リットル灌水 …強い花が 確実に各節に開花。葉は厚く、鮮緑色に。 チツソ過多で曲がり果が多い時にはCa液を。 ※灰色カビ、葉スス、ウドンコなどの対策は、Ca液と通風を。 ※葉カキ(摘葉)はあまりしない。もし過繁茂で広い葉が垂れ、風が通らず日も当たらなくなったら、着莢節の下1~3枚を残して下葉かき ※莢果の太りすぎ、硬化(すじ)、種の苦みは カルシウム不足、カリ過剰の恐れがあります ⇒ Ca液を。 ※カルシウムが効くと、収穫~調理中には粘り少なく、刻むか過熱した後に始めて、濃厚な粘り(ムチン、ペクチン)が溢れます。

「**オクラ**」はアオイ科、東北アフリカ原産。本来は多年生、日本では一年生で栽培。高温性(夜温23℃以上)露地(または初期トンネル)栽培。3～5月播種、5～10月収穫。西南暖地では周年の作型もあります。